

周辺外交工作座談会

田中 修

はじめに

10月24-25日、周辺外交工作座談会が北京で開催された。座談会は李克強総理が主催し、全政治局常務委員が出席、習近平総書記が重要講話を行った。この会議の主要任務は、今後5-10年の周辺外交の戦略目標・基本方針・総体的手配を確定し、周辺外交が直面する重大問題を解決するための考え方・実施案を明確にするためであったとされている。

しかし、座談会には、外交関係者のみならず、地方政府、中央の党・政府・軍関係者、金融機関・重要国有企業の責任者までが召集されており、開催時期が党3中全会直前であることを考え併せると、この会議は極めて重要な意義をもつものであったことが想像される。

筆者の専門は外交ではないが、この会議が日中経済関係にも大きな影響を及ぼすものと考えられるため、習近平総書記の重要講話の概要を紹介する。

新中国成立後、毛沢東同志を核心とする党第一代中央指導集団、鄧小平同志を核心とする党第二代中央指導集団、江沢民同志を核心とする党第三代中央指導集団、胡錦濤同志を総書記とする党中央は、いずれも周辺外交を高度に重視し、一連の重要な戦略思想と方針・政策を提起し、わが国の総体として有利な周辺環境を切り開き発展させ、我々が引き続き周辺外交をしっかりと行うための堅実な基礎を打ち固めた。

18回党大会以来、党中央は外交の政策大方針の連続性・安定性を維持する基礎の上に、外交の全局について積極的に計画を立て、わが国の発展の大局と外交の全局における周辺の重要な役割を際立たせ、一連の重大な外交活動を展開してきた。

地理・方位・自然環境さらには相互関係から見ても、周辺はわが国にとって重要な戦略的意義を有している¹。周辺問題を考慮し、周辺外交を展開するに際しては、立体・多元的で時空を超越した視角が必要である。

わが国の周辺情勢を観察すると、周辺環境には大きな変化が発生し、わが国と周辺国家の関係には大きな変化が発生しており、わが国と周辺国家との経済貿易関係は更に緊密となり、相互作用はこれまでになく密接となっている。これは客観的に、我々の周辺外交戦略・活動が時代と共に進み、更に主動的でなければならぬことを要求するものである。

わが国の周辺は生命力・活力が充満しており、顕著な発展の優位性・潜在力がある。わが国の周辺環境は総体として安定しており、善隣友好、互惠協力は周辺国家の対中関係の

¹ ゴチックは筆者。

主流である。

我々は大勢を謀り、戦略を重視し、計画を立てることを重視し、周辺外交を更にうまく行わなければならない。

わが国の周辺外交の戦略目標は、即ち「2つの百年」²という奮闘目標の実現、中華民族の偉大な復興の実現に服従・奉仕することである。周辺国家との関係を全面的に発展させ、善隣友好を強固にし、互惠協力を深化させる。わが国発展の重要な戦略的チャンスの時期を擁護しうまく用い、国家の主権・安全・発展の利益を擁護する。周辺国家とわが国との政治関係が更に友好的となり、経済の紐帯が更に堅固になり、安全協力が更に深化し、人文関係が更に緊密となるよう努力する。

わが国の周辺外交の基本方針は、即ち隣国との関係を善くし、隣国をパートナーとして、隣国と睦まじくし、隣国を安んじ、隣国を富ませることを堅持し、親・誠・恵・容の理念を際立てて体现することである。

周辺国家との善隣友好関係を発展させることは、わが国の周辺外交の一貫した方針である。善隣友好・近隣同士の共助を堅持し、平等・感情を重視し、常に顔を合わせ往来を多くし、人心を得て人心を和ませるような事を多く行うことにより、周辺国家が我々に対し、更に友好的となり、更に親近感をもち、更に認識を同じくし、更に支持するようにし、親和力・感化力・影響力を増強する。

周辺国家に誠心誠意対応し、更に多くの友人・パートナーを勝ち取らなければならない。

互惠の原則に基づき、周辺国家と協力を展開し、更に緊密な共同利益のネットワークを編み上げ、双方の利益の融合を更に高水準に上昇させ、周辺国家がわが国の発展から利益を得るようにすることにより、わが国も周辺国家の共同発展において裨益・助力を得られるようにしなければならない。

包容の思想を唱導し、アジア・太平洋という大容量の大きな家が共同発展することを強調し、更に開放的な胸襟と更に積極的な態度をもって地域協力を促進しなければならない。

これらの理念をまず我々自身が努めて実行することにより、これを地域国家が遵守する共同理念・行為準則とする。

新情勢下の周辺外交活動は、戦略的な高みから問題を分析・処理し、全局を統御し、統一的に企画し、操作・実施する能力を高め、周辺外交を全面的に推進しなければならない。

周辺の平和・安定の大局を擁護することに力を入れなければならない。平和発展の道を歩むことは、わが党が時代の発展の潮流とわが国の根本利益に基づいて行った戦略的選択であり、周辺の平和・安定の擁護は周辺外交の重要目標である。

² 党創立100年で小康社会を全面的に実現し、建国100年で富強・民主・文明的で調和のとれた社会主義現代国家を実現する。

互恵・Win-Win の構造の深化に力を入れなければならない。 経済・貿易・科学技術・金融等の方面の資源を統一的に企画し、比較優位をうまく利用し、周辺国家との互恵協力を深化させる戦略との結合点を探し出し、地域の経済協力を積極的に参加する。

関係国家と共同で努力し、インフラの相互連結を加速し、**シルクロード経済帯・21 世紀海のシルクロードをしっかりと建設しなければならない。**

周辺を基礎として FTA 戦略の実施を加速し、貿易・投資協力の余地を拡大し、地域経済が一体化した新たな構造を構築しなければならない。

地域の金融協力を不断に深化させ、積極的に資金を集めアジアインフラ投資銀行を設立し、地域金融安全のネットワークを整備しなければならない。

縁辺地区の開放を加速し、縁辺省区と周辺国家の互恵協力を深化させなければならない。

地域の安全協力の推進に力を入れなければならない。 わが国は周辺国家と隣接しており、安全協力を展開することは共同の必要である。相互信頼・互恵・平等・協力の新たな安全観を堅持し、全面的で共同・協力による安全という理念を唱導し、周辺国家との安全協力を推進しなければならない。地域・その下のレベルの地域の安全協力を積極的に参加し、関連する協力メカニズムを深化させ、戦略的に相互信頼を増進しなければならない。

周辺国家に対する宣伝活動・公共外交・民間外交・人文交流の強化に力を入れ、わが国と周辺国家の関係を長期的に発展させる社会・民意の基礎を強固にして拡大しなければならない。

関係が親しいか否かのカギは、民心にある。全方位で人文交流を推進し、観光・科学技術・地方の協力等友好交流・往来を深く展開し、広く友人と交わり、広く善い縁を結ばなければならない。

対外的にわが国の内外方針・政策をうまく紹介し、中国の事情をうまく説明し、中国の声をうまく伝え、中国の夢と各国人民が好い生活をしたいという願望・地域の発展の未来をリンクさせることにより、運命共同体という意識を周辺国家に根付かせなければならない。

政策・戦術は党の生命であり、外交の生命でもある。外交をしっかりと行うには、国内・国際 2 つの大局を胸中におさめておかななければならない。

国内の大局とは、即ち「2 つの百年」の奮闘目標であり、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現することである。

国際の大局とは、即ちわが国の改革・発展・安定のために良好な外部条件を勝ち取り、国家の主権・安全・発展の利益を擁護し、世界の平和・安定を擁護し、共同発展を促進することである。

利益の共同点・合流点を探し出し、正確な道理観を堅持し、原則を持ち、情誼・道義を重んじ、発展途上国に力の及ぶ限り多くの援助を振り向けなければならない。

外交の改革・刷新を推進し、外交活動の計画的設計を強化し、最大の効果を得るよう努力しなければならない。

外交を統一的に企画し、各方面を併せ考慮して、各方面を組織化・協調させ、各自の優位性の発揮に注意し、外交を更にうまく行わなければならない。

周辺外交の民無は非常に困難・繁雑で荷が重い。外交に従事している同志達は責任感・使命感・緊迫感を増強し、本旨を牢記し、技量を高め、作風を練磨し、敢えて責任を担い、勇敢に刷新に取り組んで、周辺外交を更に積極有為にしっかり行わなければならない。

(10月31日記)